

令和2年度 学校経営方針

丹波篠山市立西紀中学校

1 基本方針

日本国憲法及び教育基本法の精神にのっとり、「清純・愛郷」の校訓を基盤に、自立して社会に貢献する創造的な人間教育を進める。

2 学校教育目標 「基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って自立に向かう生徒の育成」

～元気な生徒 元気な先生 元気な学校～

3 校訓 「清 純 ・ 愛 郷」

4 めざす学校像 「安全安心を基盤に、生徒が学びを創造するコミュニティ・スクール」

[学校経営の方針]

- (1) 安全安心による信頼づくり
- (2) 将来や社会への糸口となる主体性と協働性を育む集団づくり
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり
- (4) 生徒と大人が智慧を寄せ合うコミュニティ・スクールづくり
- (5) 指導力向上と業務改善を推進する教職員組織づくり

5 めざす生徒像 「主体的な学びと仲間との学び合いを通して、深く考え実践する生徒！」

- (1) 元気で思いやりのある生徒
- (2) 意欲をもって主体的に学ぶ生徒
- (3) 協働する中で深く考える生徒
- (4) 自ら改善し実践する生徒

6 めざす教師像 教職員信条「実践・徹底・創造」

- (1) 高い使命感！
- (2) チャレンジ精神！
- (3) 専門性の向上！
- (4) 教育公務員としての自覚！

7 めざす学校・家庭・地域連携像 「ワイ(夢)・ワイ(やりがい)・ワイ(やすらぎ) チーム西紀中学校」

- (1) 夢：社会や将来につながるキャリア教育、ふるさと教育、学力向上
- (2) やりがい：自尊感情、公共心を高めるボランティア活動等、地域貢献活動
- (3) やすらぎ：安全安心・信頼を高める防災、安全、人権教育、生徒指導

8 指導の重点と実践項目

(1) 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善

- ① 新学習システムを活用した少人数指導や補充的な学習、発展的な学習など、個に応じ個が生きる指導内容・方法の授業改善を進める。
- ② 見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返りなど、各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛えながら、「主知的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ③ 生徒自らが学習を振り返り、学びの定着を図り新たな課題に挑戦していけるように、基礎基本の定着とその活用を意識した評価、評価言を工夫する。

- ④ 知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりする家庭学習や放課後学習の充実を図る。
- ⑤ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応する資質・能力を教科横断的な視点で育成する。
- ⑥ 読書への興味を深めるとともに、外部人材の活用も含め創意工夫して学力向上の取組を推進する。

(2) 誇りを感じる学校・学級集団

- ① 学校・学級の課題について、話し合い合意形成・協力して改善することを通し、現在及び将来を見据えた課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。
- ② 学級の生活・学習を話し合い、PDCAサイクルで改善する中で、誇りと責任感をもち、よりよい生活や人間関係を築く自主的・実践的な態度を育てる。
- ③ 生徒会・教科係が生活・学習の諸課題を解決・改善する活動を通して、協力・協働して諸課題を解決する生活・学習マネジメント能力を育てる。
- ④ 学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする自主的・実践的な態度を育てる。
- ⑤ 効率的、効果的に部活動を行い、顧問と協議しながら自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。

(3) 未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育・進路指導

- ① 将来の職業構造の変化や新産業の創出も踏まえつつ、教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを考える中で、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考え、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。
- ② 生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。
- ③ 体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲、態度を養う。
- ④ 地域人材による学習や地域貢献活動により、ふるさと「西紀」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。

(4) 存在感や成就感を大切にした生徒指導

- ① 生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた生徒指導を進める。
- ② 全教職員の共通理解のもと、ガイダンスとカウンセリングの双方から心の居場所づくりに努め、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。
- ③ スクールカウンセラーと連携した教育相談活動を充実するとともに、相談窓口を明確化し、早期発見・早期対応に努める。
- ④ 生徒指導方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携し継続したケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。
- ⑤ 法・条例・学校基本方針や生徒会「いじめ0宣言」によりアンケートや教育相談等を通していじめを積極的に認知し、関係機関とも連携し、早期解決を図る。
- ⑥ 情報機器の使用時間や使用目的について、生徒会活動や関係機関との連携によりコミュニケーションや個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させる。

(5) 豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育、特別活動

- ① 特別支援教育を中核に据え、ユニバーサルデザインや教育支援計画における合理的配慮を充実し、豊かな人間関係づくりと、ともに伸びる力を育成する。
また、日本語指導を必要とする生徒や不登校生徒についても個別の指導計画に基づき、計画的・組織的に指導を行う。
- ② 他者や自己との対話による道徳の時間を要として体験的・実践的活動をはじめとする学校の教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ③ 人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。

(6) 危機管理意識を高め、自らの命を守り抜く安全・防災教育

- ① 西紀中学生3つの宝（愛語・全力・傾聴）を基盤に、きびきびした生活、すがすがしい環境、温かい仲間による安全安心で規律ある教育環境を確立する。
- ② 安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時即応する。
- ③ 食・睡眠・交通をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災や国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する能力を育成する。
- ④ 家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や自転車保険への加入等、安全に対する意識の高揚を図る。

(7) 美しく活気に満ちたコミュニティ・スクール

- ① ホームページ、オープンスクール等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。
- ② 生徒会と学校運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来につながり、夢・やりがい・やすらぎ（安全安心）を体感する教育を進める。
- ③ 学校運営協議会の協力のもと、教育課程の評価改善や、人的物的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。
- ④ 小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての学びと育ちの連続性を確立する。

(8) 笑顔と元気に満ちた教職員組織

- ① 学年担任制、一人一研究授業を通じ、豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。
- ② 心を外に開き、基礎的指導力向上を図り、保護者や地域の人々の期待に応えられる教職員組織であるよう研究と修養に努める。
- ③ 法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報化、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。
- ④ 笑顔と元気に満ちた態度で生徒と向き合うため、校務の効率的・計画的な実施、会議の効率化（会議資料の事前配布）、ノー部活デーや定時退勤日の徹底、記録簿の整理、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。

9 研究主題

『主体的・対話的な学びと「振り返り」を通して、生徒自らが創る生活・学習』 ～予習・対話・家庭学習のトライアングルによる自己教育力の育成～

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ・見通し・意欲をもって学ぶための授業目標の事前提示及び予習
- ・書くことによる個人思考、対話による集団思考、対話の深化
- ・わかる・できる事項の確認や修正・推敲・活用による振り返りの充実
- ・ICTを活用した予習と協働学習
- ・学習規律・学習方法・家庭学習等、学びの質を高めるための検討
- ・生徒が検証改善する生徒会、教科係、学級活動、コミュニティ・スクール

(2) 学力向上への取り組み

- ・語彙を広げ、文章を読み取る力を伸ばす取り組み
- ・書く力を伸ばす取り組み
- ・ノート指導の充実
- ・即効で話す力、情報を整理して発信する力を伸ばす取り組み
- ・人的環境、授業におけるユニバーサル化の取り組み

10 各学年の目標

第1学年 学年目標 「Change! ～認め合う・支えあう・磨き合う～」

重点課題

- (1)健康第一・自己安全管理
- (2)「認め合う・支えあう・磨き合う」集団づくり
- (3)当たり前前することを当たり前前に行える人づくり
- (4)部活、行事、学習の目標を持って活動する
- (5)学習習慣の確立!

第2学年 学年目標 「素直・優しさ・一生懸命! そして・・・挑戦!!」

☆全力全開青春のセカンドステージ☆

重点課題

- (1)当たり前前することを当たり前前!
- (2)授業への集中と家庭学習を習慣化!
- (3)人の痛みがわかる【情】のある人間に!
- (4)いつも熱く燃えるクラス・学年集団で!
- (5)自分の可能性に挑戦!

第3学年 学年目標 「相愛 One Team」

31(最大)の力! 31(最)上級の笑顔! 31(最)高の感動!

重点課題

- (1)正義の実行集団&リーダーシップの発揮!
- (2)学び続ける粘り強さ!
- (3)人との絆&感謝の気持ちを大切に!
- (4)人に愛される学年に! 生徒に!

11 3カ年計画

(1) 3カ年計画設定の理由

単年度ごとの取り組みで終わるのではなく、課題を明確にして、3年後の西紀中学校のあるべき姿をしっかりと捉え、それに向けて、具体的な柱だてを設定し、年度ごとに検証を加えながら、組織的・継続的に取り組みを推進していくことが必要であると考えます。

(2) 期 間 令和2年度 3年度 4年度

(3) 研究テーマ 「西紀中学校ドリームプラン！」

～基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って自立に向かう生徒の育成！～

- ### (4) 研究目標
- 生徒の「確かな学力」「自己教育力」の育成・定着を目指します。
 - 生徒の自立を目指し、特色ある教育活動に取り組みます。
 - 教職員の専門性の向上と学校運営等の改革に取り組みます。

(5) 施策の基本方向

- ①基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善
(学力向上・授業改善・授業力向上・外国籍生徒への指導)
- ②実態に応じた特色ある学校経営・学年経営・教育活動
(学校行事・学年行事・学年経営・部活動・コミュニティスクール・業務改善)
- ③更に充実した生徒指導体制・小中連携
(不登校対策 情報モラル 小中連携)
- ④未来に挑戦し自己実現を目指すキャリア教育
(キャリア教育 進路指導)

構成		生徒の活動	教師の指導・支援																																		
予習・準備	習得	学習活動1 教科の「見方・考え方」の理解に基づく主体的な学び 「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」：教科等の物事をとらえる視点や考え方																																			
		◎主体的な学び (Control) ・ 次の活動を見通し予習・準備する。 「ねらい」「知識」「実験・観察方法」「作業方法」「問題解決のヒント」「話し合う内容」等の理解	○「目標」の事前提示 ・ 主体的な学びの礎となる指導 きびきびした生活(時間、姿勢) すがすがしい環境(美化、掲示) さわやかな仲間(挨拶、敬意)																																		
1 つかむ	活用	・ 見方：解決すべきことを確認する ・ 考え方：学習の見通しを立てる	・ 具体物等の提示等、 必然性のある課題意識をもたせ学習の見通しを立てさせる																																		
2 考える (個人思考)		・ 見方・考え方を働かせ、根拠を明確に、適切な学習用語や図表・グラフを使って具体的に考えたり、書いたりする。 「だから」「けれども」「本当は」「自分は」等の深く考える言葉	・ 多様な意見が引き出せる発問 短く、具体的(分量等)、1回で ○書く時間の確保と条件設定の工夫 より詳しく、具体的に書かせる ◆机間巡視による意見把握 (キーワードに着目し短時間で)																																		
教育活動	活用	学習活動2 「見方・考え方」を働かせた対話的な学び合い 思考力・判断力・表現力を育むことに重点をおく授業→生徒が自ら考え、気づくため共通点や相違点に着目して交流 基礎的・基本的な知識・技能の定着に重点をおく授業→教師が教えるべきことは教え、理解・習得することを目的とした交流																																			
		◎対話的な学び合い (Communication) ・ 自分の考えを発表するだけでなく考えを比較・整理・類別しながら聞き、考えを高める。	○見方・考え方を働かせ、他者の発言から、自分の考えを比較、整理、類推しながら聞き、考えを高め合う活動の工夫 ・ 具体的、論理的に対話 ・ 聞き方の指導 (違う点、気づきを朱書でメモ) ◆意図的指名によるコーディネート																																		
3 深める (集団思考)	探究	生徒の思考スキル <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>比較</td> <td>AとBを比べると・・・</td> </tr> <tr> <td>関連</td> <td>AとBをつなげると・・・</td> </tr> <tr> <td>分類</td> <td>グループに分けると・・・</td> </tr> <tr> <td>仮定</td> <td>もし～ならば</td> </tr> <tr> <td>推測</td> <td>～だから・・・と考えられる</td> </tr> <tr> <td>選択</td> <td>～だから・・・を選んだ</td> </tr> <tr> <td>具体</td> <td>例えば(具体的には)・・・</td> </tr> <tr> <td>多面</td> <td>他の視点から考えると・・・</td> </tr> <tr> <td>批判</td> <td>本当にそう言えるか</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>つまり(まとめると)・・・</td> </tr> </tbody> </table>	種類	考え方	比較	AとBを比べると・・・	関連	AとBをつなげると・・・	分類	グループに分けると・・・	仮定	もし～ならば	推測	～だから・・・と考えられる	選択	～だから・・・を選んだ	具体	例えば(具体的には)・・・	多面	他の視点から考えると・・・	批判	本当にそう言えるか	総合	つまり(まとめると)・・・	思考を深める発問の工夫 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>発問</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>因果</td> <td>なぜそう思うの？</td> </tr> <tr> <td>類推</td> <td>〇〇であることから考えられることは？</td> </tr> <tr> <td>変換</td> <td>〇〇を使って表現してみよう</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>どこが同じ(違う)</td> </tr> <tr> <td>要約</td> <td>一言で言い換えると</td> </tr> </tbody> </table>	種類	発問	因果	なぜそう思うの？	類推	〇〇であることから考えられることは？	変換	〇〇を使って表現してみよう	比較	どこが同じ(違う)	要約	一言で言い換えると
種類		考え方																																			
比較	AとBを比べると・・・																																				
関連	AとBをつなげると・・・																																				
分類	グループに分けると・・・																																				
仮定	もし～ならば																																				
推測	～だから・・・と考えられる																																				
選択	～だから・・・を選んだ																																				
具体	例えば(具体的には)・・・																																				
多面	他の視点から考えると・・・																																				
批判	本当にそう言えるか																																				
総合	つまり(まとめると)・・・																																				
種類	発問																																				
因果	なぜそう思うの？																																				
類推	〇〇であることから考えられることは？																																				
変換	〇〇を使って表現してみよう																																				
比較	どこが同じ(違う)																																				
要約	一言で言い換えると																																				
4 確かめる	探究	学習活動3 「見方・考え方」を働かせた学びの深まりの実感 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>知識・理解思考(知識・理解)</td> <td>知識を相互に関連付けてより深く理解</td> </tr> <tr> <td>論理的思考(応用・論理)</td> <td>情報を精査して考えを形成・問題を見出して解決</td> </tr> <tr> <td>創造的思考(批判・創造)</td> <td>思いや考えをもとに創造</td> </tr> </tbody> </table>		知識・理解思考(知識・理解)	知識を相互に関連付けてより深く理解	論理的思考(応用・論理)	情報を精査して考えを形成・問題を見出して解決	創造的思考(批判・創造)	思いや考えをもとに創造																												
知識・理解思考(知識・理解)	知識を相互に関連付けてより深く理解																																				
論理的思考(応用・論理)	情報を精査して考えを形成・問題を見出して解決																																				
創造的思考(批判・創造)	思いや考えをもとに創造																																				
		◎学びの深まりの実感 (Reflection) ・ 自らの考えを修正・推敲する ・ 分かる、できるようになったことや今後どう活用するか確認する。 ・ 定着を図る練習問題をする。	・ 学びの深まりを実感させるための量的変容及び質的変容の評価言、確認問題、振り返り等																																		